

会社のトップが 社員へ“ビジョン”を 話す重要性



中小企業診断士として複数の顧問先を訪れる中、最近強く感じていることがあります。それは、会社のトップである社長が、社員の皆さんに対してビジョンを話すことの大切さです。

「社長が社員に向けて会社の未来を語る」これは一見、当たり前のことかもしれませんが、意外と実践されていないような気がします。たとえば社員数十名の会社では、社長と社員の距離が近く、話をする機会も多いでしょう。しかし、そういう場では「最近どう？」という“様子うかがいのコミュニケーション”がメインになりがちです。もちろん、こういう話も大事ですが、「社長がどんなふうに会社の未来を考えているのか」といった内容を伝えることが、会社に変化をもたらすこともあります。

先日、まさにこのケースを体感しました。ある顧問先（従業員 50 名程の製造業）を訪問した際、社長が私にこんな話をしたのです。「『社員全員が仕事にプライドと誇りをもって働ける会社』これが私の目指す会社の姿で、この先もずっとそうであってほしい」

この言葉を聞いたとき、「これは私の中だけで留めておく内容ではない」と思いました。そこで、「ぜひ、皆さんにも伝えてください」と提案しましたが、社長は戸惑っている様子。「まあ、かしこまって話すことでもないよね……」と、濁されてしまいました。

その日の帰り、私は開発チームのリーダーから相談を受けました。「最近忙しかったこともあって、メンバーのモチベーションが下がっているような気がして、何をすべきでしょうか……」そんな

なリーダーの姿を見た瞬間、真っ先に浮かんだのが、先ほどの社長の話です。私は再び社長の元を訪れ、何とか OK をもらうことができました。

そして、当日。会議室に集まった全社員の顔を見渡しながら、社長はゆっくりと話し始めました。「私が目指すのは、『社員全員が仕事にプライドと誇りをもって働ける会社』です。この先 10 年、20 年後も、そういう会社であり続けたいと考えています。皆さんの仕事ぶりについては、とても信頼しています。だから、それぞれのプロに安心して仕事を任せられるのです。そして私自身は『トップとして何ができるか』を考え、皆さんが進む道をしっかりと示してゆきたいと思います」

数週間後、例の開発チームのリーダーからメールが届きました。「メンバーの様子が少しずつ変わってきている。会社のビジョンを聞いたことで、皆のやる気もアップしているように思える」といった前向きな内容でした。また、管理職のメンバーに話を聞いてみると、意見交換が活発になったり、スケジュール管理の見直しを行うなど、それぞれのチームで仕事への取り組み方に変化が見られたようです。

もちろん、社長の話がこれらの行動を引き起こせたのかは分かりません。しかし、社員が会社のビジョンを知ったことで、目指す方向が明確となり、仕事に対する向き合い方が変わったのは事実です。今月も、皆さんの“変化”を楽しみに、訪問しようと思っています。（中小企業診断士 西端 望）

西端氏の事務所 HP はコチラから→

